投谷神社本殿・末社四所宮・末社地主社
附　棟札13枚・妻板１枚

【所　在　地】曽於市大隅町大谷5536番地
【種　　別】県指定有形文化財（建造物）
【指定年月日】平成１５年４月２２日

1　沿革

三国名勝図会によると，和銅元(708)年の創建と記されているが，明確ではない。鹿児島神宮との関係が深く，鹿児島神宮を中心に東西南北に配置される４つの神社のうちの１つで，東側に位置する。

2　本殿

(1) 建立時期

現本殿の建立時期は延享五(1748)年（江戸時代中期）と考えられる。

(2) 建築的特徴

正面三間，側面二間に前床を前方に付けた構造で，向拝柱（社殿の正面階段の上に張り出した部分を支える柱）がなく，大隅半島の地域的特徴を示している。

3　末社四宮・末社地主社

(1) 建立時期

18世紀中頃と考えられる。

(2) 建築的特徴

両末社は同形同大の見棚造り（正面の階段の代わりに供物等を置く板や棚を付けた造り）で，年代も古く貴重である。正面上部に横にかけられた梁（水引虹梁）は曲線をなし，県内独特の形式を示す。

4　棟札・妻板（棟上げ・修理等の内容を記し，棟木に打ち付けた札）

本殿内に所蔵されていた中世・近世のものである。いずれも年号が記され，貴重なものである。